カトリック高円寺教会教会報

いしずえ

2024 10・11・12月号
〈合併号〉

第648号 2024・12・22 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-33-32 TEL 03-3314-5688 FAX 03-3314-8954

クリスマス　新年
おめでとうございます

飼い葉桶の幼子の恵み

主任司祭　高木　健次

クリスマスの前には、どの教会でもご降誕の場面を現した人形を飾ることでしょう。マリア、ヨセフ、東方からやって来た博士と呼ばれる謎の人物、羊飼いや天使たちが、飼い葉桶の中の幼子イエスの周りに集まっている情景は、ご降誕の夜に私たちを連れて行ってくれるようです。ところで、多くの場合、クリスマス当日まで幼子イエスはどこかに隠しておかれて、飼い葉桶は空にされます。さらにこだわって、東方からの博士たちを、はじめは離れた所に置いておいて、旅をしているように、クリスマスや主の公現の日に向けてだんだん近づいてくるようにしている所もあります。空の飼い葉桶や近づいてくる博士たちは、クリスマスがまだ来ていないということを表し、当日にむけての期待感を高めてくれるものではあります。しかしやぼなことを言うようですが、こうした演出はご降誕の意味を表すためには少し難があるなあと感じています。というのも、クリスマスにわたしたちがお祝いするのは、救い主がこの世に来られたことによって、神と人、人と人との真のつながりが回復される時が来たということだからです。救い主がお生まれになっていないのに、他の登場人物が集まっているのはおかしいのです。飼い葉桶が空なら、人々は互いに無関係にばらばらで、牛とろばだけが近くにいるはずです。羊飼いはどこかで羊の世話をしているし、博士たちは旅にでていない。ただナザレの地ではお生まれになる救い主の恵みの予感によって天使のもとでマリアとヨセフが出会っているでしょう。みんなが集まっている中に、救い主が来られたのではなく、お生まれになった救い主の恵みによって、それまでつながりがなかった人々が集められる。それがご降誕の恵みだし、その情景こそ教会とは何かを表していると言えるでしょう。救い主が不在で空の飼い葉桶の周りに人が集まっているということはその中に、神の御心ではなく何らかの人間の思惑が置かれている可能性があります。わたしたちの教会がそのようなものになりませんように。この世に来られた救い主の恵みによって私たちがつながり、よろこびを分かち合うことができますように。